

自由論題3、報告3

報告テーマ

中国における葉煙草の生産と流通体制
China's Tobacco Production and Marketing System

氏名(所属)

張 馨元(横浜国立大学)
ZHANG Xinyuan (Yokohama National University)

要旨(800字程度)

中国は世界最大の葉煙草生産国である。FAOSTATによれば、2018年に中国の葉煙草生産量は224万トンで、世界全体の37%を占めている。しかし、中国では葉煙草の生産と流通体制が他の農産物とは異なっている点はあまり知られていない。1980年代以降、中国経済は計画統制から市場化へ移行しながら、急成長を遂げた。農業部門では、各種農産物の生産と流通の規制が徐々に緩和され、制限が厳しかった主穀の流通も2004年に自由化された。市場化改革が進む中、葉煙草の生産と流通に関わる改革は、経済全体が向かう方向とは逆行し、国家専売制中心の統制型システムの強化が主軸となっている。

本論文は以上のような問題意識のもと、加藤・渡邊・大橋(2013)で行っている国家資本主義の議論を考慮しつつ、アグリビジネス論の視点から、中国における葉煙草の生産と流通体制を分析する。その際に、菅沼(2001)の雲南省煙草産業に関する研究成果を踏まえ、2000年代以降の変化を中心に、中国の葉煙草の生産と流通状況を把握し、専売制が強化された経緯とそれが主産地の農業農村経済に与える影響を考察する。研究手法としては、主に中国の政府文書、統計資料などの一次資料、及び筆者が実施した現地調査の結果に基づく実証分析を行う。

本論文の結論は、以下3点にまとめることができる。第1に、中国の葉煙草生産は1980年代初頭に東北、華北、西南地域にある多数の省に分散していたが、1990年代以降、西南地域、とりわけ雲南省へ著しく集中するようになった。第2に、「全数契約生産、統一買付、統一販売」の特徴を持つ現在の葉煙草の生産と流通体制の構築は、主に1998年以降に行われた専売制を強化する政策が奏功した結果である。第3に、中国政府は、過度な増産と地域間競争を制限するため、葉煙草の生産と流通に対する専売制を強化してその目的を達成した。その後、2010年代に入って、強力な専売制は、農村部における貧困削減のための政策手段として利用されている。ただし、国内の紙巻きたばこに対する需要が減少する中、葉煙草による貧困削減政策の効果は限定的なものと思われ、その検証は今後の課題といえる。

・先行研究

加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国 経済篇——国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。

菅沼圭輔(2001)「煙草市場の変動と昆明煙草会社の産地政策の転換——石林県山間主産地の事例分析」(中兼和津次編著『中国農村経済と社会の変動』御茶の水書房、所収)。